



梅田章二候補と握手をする大川前総裁(右上)。小山広明候補は釜ヶ崎地区の三角公園前で辻説法。選挙カーは軽のワンボックス(右)。西村重蔵候補とは、自宅前でツーショット。知事給与の半減、公立校茶髪禁止、落書きは準テロとみなすなどが公約(左上)

インディーズ候補に密着！ そのパワーにメロメロ！

そう思っている時に現れたのが小山広明候補だった。告示の日、他の4候補より30分遅れて府庁に現れた小山候補は、いきなりオレに、

「どこで受付けするの？」
なぜかオレが受付会場まで案内する。オレは一度その場を離れ、3時間後に小山候補の携帯に電話をしてみた。

「これから鶴橋駅でやるよ」
急いで駆けつけるとすでに小山候補の車が止まっている。小山候補は横断歩道を渡ろうと信号待ちをしているが、赤信号が意外と長い。突然、小山候補は横断歩道とは反対側に歩き出した。

「大阪がオカシイと思ったら誰でも出ればエエ。それが最初の一步や。もっとも、ここにおる人はほとんど選挙権ないけどな。でも関係ない。こ

にも声をかけるの。小山です」
ようやく信号が変わると横断歩道をダッシュで渡り、駅前の細い路地に入る。通称「コリアンタウン」。韓国なのかと思わせる商店街が並ぶ。小山候補は結婚式を控えたお嬢さんがチャマチョゴリをあげ、お嬢さんがチャマチョゴリをあげ、商店街のたこ焼きを食べながら話してくれた。

「32歳の時に世界一周で21カ国回ったんねん。インド、パキスタン、イラン、トルコ、デンマーク、フィリピン、台湾とか、いろんな国をヒッチハイクしとったんや」
元祖・猿岩石がここにいた。大阪がオカシイと思ったら誰でも出ればエエ。それが最初の一步や。もっとも、ここにおる人はほとんど選挙権ないけどな。でも関係ない。こ

「そっちは誰もいませんよ」
「選挙は人相手だけじゃない。こういって植木にも自転車

のやり方でやってきた。ワシの政策は情報公開、そして市民から予算案出してもらおうや。ほな、次は釜ヶ崎行くで」
「えっ！ 釜ヶ崎!!」
オレは今まで一度も釜ヶ崎での選挙運動を見たことがない。東京でいえば山谷地区。日雇い労働者が多く、不況のあおりを一番受ける場所だ。釜ヶ崎といえど大阪でもナンバーワンのデンジャラス地区といわれる。一番避けて通るところにあえて行くのか？
「いつも夏祭りて天ぷら屋をやっております小山です」
と、宣伝カーでどんどん三角公園へと向かう。道路で寝ていた人が起きて手を振ってくれる時もあれば、途中で、
「うるせえ、ポケ！」
とも言われる。ふつうなら車で通り過ぎて終わるところだが、三角公園の前で車を止め、車を降りて演説をする。酔っ払っている人も多いが、
「小山、ええど！ 太田に負けんよ」
という声も上がる。演説が終わると三角公園の人々に、
「府知事候補の小山です」
と、ひとりひとり握手を求

める。オッチャンやオバちゃんか、
「ただの売名行為だったらあかん。本当に勝ちにいかないあかん。ウチら見とるで」
「羽柴秀吉は出んのか？ アイツ、本籍を大阪城に移したんだろ。どうしたんや」
「お上に任せたらあかんで」
とか、オレにも詳しくツツコンで話してくる。なんかすごく楽しかった。まさにベト

コン選挙活動。さすが、この方法で6回落選、4回当選というパワーがわかった。